

## 企業OBペンクラブ様々

内藤 真理子

コロナで行動が制限されるようになってから、もうすぐ2年になる。不要不急の外出は避けるように、そうお触れが出れば、毎日が日曜日の私にさしたる用事はあるわけもなく、世間の迷惑にならないようにとひたすら蟄居する日々、企業OBペンクラブに入っていてよかった！と思わない日は無い。

さすが元企業戦士の面々、コロナで行動が規制されるようになってすぐに、ほとんどの勉強会をZOOMで開催できるようにして下さった。

私は、何でも書こう会、読もう会、俳句、掌編小説の分科会に入っている。ZOOMでマスクを外して皆様にお会いし、それぞれの多岐にわたる話を聞くのも、それを肴に言いたいことを言い合うのも楽しい

だがその前に、宿題がある。読もう会以外は、書かなければならない。

何を書こうと考える。今日のおかずは何にしよう、よりも多くの時間考える。蟄居中の私の行動範囲は家の周辺とスーパーマーケット、図書館くらいで、書くネタがない。んんん。

そんな時、映画好きの友人からメールがあった。

「ジヨジヨラビット、面白かった！」。コロナになってから、毎日のようにビデオを借りているようだ。

私も早速借りた。

十歳の少年が軍服を着て写っている。子供向けの映画？とがっかりしながらも、彼女が推薦してくれたものは全部面白かったと気を取り直す。

少年ジヨジヨはヒットラーに傾倒している。ヒットラーが度々彼の側に現れて叱咤激励する。これは彼が作り出した幻影なのだが、ジヨジヨ自身は気の優しい臆病な少年である。彼は部屋中にヒットラーグッズを張り、軍隊に憧れ少年兵の訓練に加わるがけがをして家に帰る。

母親と二人暮らしの家に一人ぼっちでいる時に隠し部屋を見つける。そこにはユダヤ人の少女が隠れていた。やがて母親がしぼり首に。

天使のようなジヨジヨ少年のヒットラーを信じての驚きと苦悩、突きつけられた現実。

これ、コメディ映画だったのです。800字で書かなくちゃ！